

世界の流れについて

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間を聞いていただきありがとうございます。月曜日、火曜と中国に行かせていただきましたので、そのお話をさせていただこうと思っていたのですが、今、栃木県で一番話題になっている小山で起きた兄弟の誘拐殺人事件について、私の意見をお話しようと思います。皆さんも子供達の健全な発育、育成のために是非このことについてお考え下さい。

私の考えはやはり子供の命が一番大事である。それをとりまく大人は自分の見たり聞いたりした範囲で責任を果たすことが大事だと思います。両親、祖父母、児童相談所、警察などそれぞれの責任を果たす。子供の命は誰が守ってもいいわけです。悪い結果にならなければいいのですから自分の見聞きしたことや職場内、管轄内などでおかしい事が起こった時は、それを放っておかない。子供の命を守るという高い見地から言うべきことは言ったり、おかしいと思ったことは断固主張して、子供の命をまもっていく。やらなければならない事が沢山あったにもかかわらず、誰かがやってくれるだろうという、他人任せから手遅れになってしまい2人の子供が亡くなってしまいました。ですから我々大人はおかしいと思う事が起こった時は社会人として責任を果たしてほしいと思います。社会的に相当な対処していただければありがたいと思います。もっともっと私達が頑張らなければこの2人は生命を全うできると思います。

9月11、12日は北京に行き、チャイナビジネスサミットという経済人が集まる会議に出席してきました。500名態度の出席者があり350名程が中国人、150名程が外国人でした。日本からは川口外務大臣はじめ10名位の方が参加しました。私もその打ちの1名として行かせていただきました。私が行った理由は、中国でどのような事が起きているのか、それをとても知りたいという思いがあったからです。私は東京にある経済同友会のメンバーであり、そのメンバーであれば参加できるということで行って参りました。中国の人々が本当に熱心に経済の活動に挑んでいることが分かりました。使用言語は中国語と英語です。日本人は10名しか行きませんので日本語の同時通訳がつきませんでした。だいたい、大臣級の方で日本語しか分からない方は同時通訳がつくのですが川口大臣は英語で演説なさいました。それくらい英語が分かる方なので同時通訳はつきませんでした。ですから中国語の分からない人は英語で聞いて、英語の分からない人は中国語で聞くという英語と中国語の同時通訳がつきました。テーマで私が一番印象深かったのは「インドと中国の経済交流」でした。インドも中国も社会主義国でしたが、非常に仲が悪かったのが何十年か前です。今は経済的交流が活発で、もしかしたらFTA・自由貿易協定が人口が13億と10億の中国とインドで締結されるような気配さえ見えました。ASEAN、東アジア諸国連合の国々が中国がインドと一緒に貿易をしましよとFTAの申し出をしました。それがテコになってインドとASEAN、ASEANと中国、インドと中国という3つが強い経済的連携を持って、これから歩いていくような気がします。

川口外務大臣は日本と中国、韓国が自由に交流できる国、地域をつくりましようとおっしゃっていましたが、私は中国とインドが人的交流や経済的交流、色々なことを深めて経済的連携を強めていくと感じました。ASEAN も同じです。ASEAN は5億人います。全部で30億人ぐらいの大きなマーケット市場ができます。これを見据えて栃木県にいる我々は色々な仕事をしないと中国のWTOの加盟でだいぶ被害を被ったといいますが、それどころではないインパクトのある時代になりますので、放送をお聴きの皆さんも、このようなことに関心を持ち、どうしたらよいか考えていただきたいと思います。幸いなことに栃木県は輸出に強いです。第2次産業が非常に頑張ってくれていますので、経済的には良い状況にあります。国内のことだけにかまけていると世界の流れについて行けずに没落、陥没してしまう地域となってしまう。是非、皆さんも関心を持ち、どのようにしたら外国とうまくつき合えるか考えてほしいと思います。